

うちなーぐち

かわら版

沖縄語を話す会会報

第18号

2014年9月18日発行

会長 山路 安清

事務局（編集室）

〒215-0031

川崎市麻生区栗平2丁目2番9-303

hasama-kuni@nifty.com 國吉 真正

電話 & F a x 044-988-8065



富盛石彫り大獅子（県指定有形民俗文化財）1689年建立 八重瀬町富盛

「^{おきなわ} ^ご ^{はな} ^{かい} ^ち ^た ^{けーん} ^{あち} ^{びん} ^{ちよー} ^い ^{しな} ^{がわ} ^{あー} ^{さき}」
「沖縄語を話す会」 月に二回集まてぬ勉強会、品川ぬ大崎をて

- ・ ^わ ^{わら} ^び ^じ ^{ぶん} ^と ^{むい} ^な ^ま ^と ^{むい} ----- 石原末子
・ ^わ ^ら ^び ^じ ^{ぶん} ^と ^{むい} ^な ^ま ^と ^{むい} ----- 石原末子
・ ^{うち} ^な ^ー ^ぐ ^ち ^{なら} ^に ----- 笹本美恵
・ 会報に出てきた語句の説明
・ 事務局から

会報の名称を「沖縄語かわら版」から「うちなーぐちかわら版」に変えました

ホームページ

<http://www.wwq.jp/p/>

沖縄語教育支援文庫

<http://www.wwq.jp/q/>

わ らび じ ぶん と むい なま と むい
我んが 童 やたる 時 分 ぬ 富盛 と 今 ぬ 富盛

石原末子 (八重瀬町)

石原末子さんに富盛言葉で書いてもらいました。文の一部は第19回「しまくとば語やびら沖縄県大会」でも発表されております。富盛言葉は、文面では分かりませんが、抑揚にも特徴があります。発音は、音読記号で示すと、「w」がなくなります。

hwi (ふい) hi (ひ) ?wi (ゐ) ?i (い)

例えば (ふーたー) (ひーたー)

(ゐーりきさん) (いーりきさん)

になっています。音読して確かめてみてください。

えー。今日や、何っし遊ぶが。

「げっちょー」、「こーるまー勝負」、「パッチー」
「戦争小せー」、「ゴム段跳び」、「毬突き」、「お手玉」
「縄跳び」、「缶蹴り」、「石なぐー」、「びー玉」ん
ち、皆どーぬ好ちゆる遊びど言る。

男 童 ぬ 多 さい ねー、「パッチー」 「戦争小せー」
「げっちょー」んち、勝負する遊びぬ多さたん。女
童 ぬ 多 さい ねー、「ゴム段跳び」 うりから「毬突き」
「石なぐー」 「お手玉」 んでーっし遊だん。

我んねー、っ人んかい負きてー成らんぞる気立てぬ
ある 童 やたくと、男 童 どん良一遊だん。

あんすくと、じめ遊びやてん、為枯らしぬあん。

変わて、男 童 と遊だる「戦争小せー」や、いーり
きさたん。

うんにーまんぐろー、何処ぬ家ん、屋敷ぬ巡いん
かえー、「防風林」どっし高木ぬ植らっどーたくと、
童 ン 達 や、皆、猿 小ぬ如っし、木ぬ枝から木ぬ
枝んかい渡て、相手ぬ頭 触ゆんでる遊びぬあたん。
頭 触たる者ー、勝ちやんて言ち、「スリル満点」ぬ遊
びやたん。

我んねー、八重瀬町 字富盛をて生まりて、ゆちゆ
ちーと、あてってーんそーて、山野から走ーえー成て、
遊ぶる「おてんば」童 やたん。

冬一、夕さんて成いねー、「うしー隠ー」んて言ち、
皆、な一銘銘ぬ家から、ひーたー、うりから、大っ人
ぬオーバー持っち揃て、村屋ぬ庭をて、二組んかい分
かりて、一組一、物ぬ陰 ない隠て、な一組一、
幾人しんかぬ上んかい、オーバー、うりから、ひー
たー被して、「な一済むんどー」んて言ち、声掛き一
ねー、隠とーたる組ぬ童 ン 達 が出じてっ来、「幾人
やさ」んて言ち、人数当てーん。

むし、人数ぬ合ーらんだいねー、又ん、いぬ組ぬ童
ン 達 が、オーバー、うりから、ひーたー被じゆん。
あんし、人数ぬ合ーいねー、今度一、ちがーるーする
遊びやて、時ぬ経ちゆしん忘て遊だるむんやさ。

村屋ぬ前ぬ庭んて言しん、んまー、暮らし方ぬ道ど
やたる。

うんにーまんぐろー、大概、車一、通らんぞあくど、
道一、遊び所どやたる。

うぬ村屋ぬ前なかえー、まぎぐむいぬあて、夏ねー、
童 ン 達 が浴みたい、ばーきない入ってーる芋、野
菜洗たい、牛、馬ん浴みしとーたん。

村ぬあまくまなかえー、くむいぬあたん。

うぬくむいんかい近さる家ぬっ人ぬ達ぬ、暮らし方
んかえー、無ーん成ちえー成らんむんやたん。

又、うぬくむい掘たいに出じたるんちやー、盛小成い
くど、んまん遊び所 やたん。

家と家ぬ間 なかえー、田、畑 ぬあたい、村ぬ巡
いんかいん田、畑 ぬあたん。

村ぬっ人ぬ達 や、米、芋、野菜、をーじんでー作
て、ちかねー物飼らとーたん。大概ぬ物一、どーく
る作て、暮らし方一、何事ん無ーん如暮らちよーた
ん。ちかねー物ぬ達 ン かいん「天国」やたん。

何時ぬ節ん、生ち物ぬ 達 ぬ出じーし、見だりーたん。
あたびちぬ鳴ちゆる声、タニシぬ生まりーし、蝉 小

ぬ声、鳥小ぬ声、あーけーじゆーぬ飛ぶる夕さんて

んでーや、^{わらび} ^{ちゃー} ^{うた} ^{うた} ^{にほん} ^{むーど}
童ん達が歌いる歌なかいある日本ぬ元

ぬ景色ぬあたん。

やしが、^{たいへい} ^{よーせん} ^{そー} ^{はじ} ^く ^{がた} ^{むる}
太平洋戦争ぬ始まで、暮らし方ー、諸う
ち変わて無ーらん。

^{くー} ^{わらび} ^わ ^{くー} ^{しゅー} ^{けい} ^{ほー} ^き ^き
小さる童やたる我んねー、「^{くー} ^{しゅー} ^{けい} ^{ほー} ^き
空襲警報聞こえて来
たら、^{いま} ^{ぼく} ^{ちい} ^{さい} ^{から} ^{おとな} ^い ^う ^{こと} ^{よく} ^き
今は僕たち小さいから大人の言うことよく聞
いて^{あー} ^わ ^さ ^わ ^あ ^っ ^{はい}
慌てないで騒がないで落ち着いて入っていま
しょう^{ぼく} ^{ごー}
防空壕。」んで^う ^た ^{めー} ^{にち} ^{うた}
言う歌、毎日ぬかーじ歌ーさつ
とーたん。

^{なか} ^{ゆく} ^な ^わ ^{たー} ^{ふか} ^{とん}
中憩い成いねー、我っ達や、外んかい飛出じて、「ブ
ー！^{ていく} ^{ていく}
低空、低空。」んで^い ^{びー} ^{にじゅー} ^{くー} ^{えー} ^{じだき}
B 2 9ぬ八重瀬岳か
ら^{むら} ^ん ^か ^い ^{ていく} ^{ひこ}
村んかい向かて、低空飛行っし、^{うさ} ^ち
襲って来ゆー
るねーびっし遊だるむんやさ。

^{むら} ^な ^か ^い ^あ ^た ^る ^ま ^ぎ ^や ^う ^り ^か ^ら ^あ ^さ ^ぎ ^ぬ ^あ ^る ^や
村なかいあたるまぎ家、うりから、あさぎぬある家
なかえー、^{にほん} ^{へい} ^ぶ ^ぬ ^{えー} ^り ^ん ^ち ^{にほん} ^{へい} ^ま ^た
日本兵ぬえーりんち、うぬ日本兵や、全
ち、^{やー} ^{ぐど} ^を ^わ ^{たー} ^{やー}
どーぬ家ぬ如っし居たん。我っ達家んあさぎぬ
あたくど、^{たい} ^{じょー} ^{かん} ^ひ ^{たい} ^を
二人ぬ上官らーさる兵隊ぬ居たん。

^{じょー} ^{かん} ^み ^{かんげ} ^に ^{とー} ^{へい} ^{ぐど}
上官見ー考ーする二等兵や、がならーさる如っし
はたら
働ちよーたん。

^に ^{とー} ^{へい} ^わ ^{かな} ^く ^{とちどち}
うぬ二等兵や、我んいっペー愛さっし呉て、時々
^{じょー} ^{ゆく} ^か ^い ^{みー} ^{とー} ^る ^ま ^ぎ ^が ^じ ^ま ^る ^ぬ ^木 ^ぬ ^下 ^を
門ぬ横んかいみーとーるまぎがじまるぬ木ぬ下
て、^{あし} ^{ほん} ^ゆ ^ど
まじゅーん遊だい、本読て取らちやいそーたん。
あんし、^{ばー} ^{こん} ^{べい} ^{とー} ^ゆ ^ふ ^し ^{くど}
うんな場に、金平糖んで言う菓子いーゆる事
んあたん。

^に ^{とー} ^{へい} ^ゆ ^{ちど} ^う ^{むら} ^{やー}
うぬ二等兵や、夕さんで努みぬ終わいねー、村屋ぬ
^{すば} ^{まー} ^ち ^し ^ち ^へ ^に ^{ほん} ^{だん} ^じ ^う
側ぬ松ぬ下をて、まぎ声さーに、「^く ^{にほん} ^{だん} ^じ ^う
日本男児と生
まれきて^{いく} ^さ ^に ^わ ^た
戦の庭に立つからは・・・」んで、^{うた}
歌たい、
「^あ ^さ ^よ ^あ ^ち ^し ^お ^す ^こ
朝だ夜明けだ血潮のしぶきうーんと吸い込
む・・・」んで、^{うた}
歌たいそーたん。
なー、^ぬ ^{ぐど} ^ね ^な ^だ ^や ^つ ^{ひー} ^{びー}
うんにーねー、何事ん無ーらん灘安さる日々や
たん。

やしが、^あ ^ど ^い ^く ^さ ^な
後ぬうんじゅめー、戦ー、たつたちじ成て、
^{むら} ^{ちゅ} ^{ちゃー} ^{やー} ^し
村ぬっ人ぬ達や、家捨てて、あまくまんかいひんぎ

ゆんち、どまんぐとーたん。

^わ ^{たー} ^{やー} ^{にん} ^{じょ} ^{えー} ^{じだき} ^い ^と
我っ達家人衆一、八重瀬岳ぬガマなかい入っち、富
^{むい} ^{むら} ^な ^か ^い ^{しよー} ^{めい} ^{だん} ^う ^ど ^さ ^つ ^て ^{やー} ^{やー} ^や
盛ぬ村なかい「照明弾」ぬ落どさつて、家々ぬ焼
き
ーし見ちゃん。

^あ ^ど ^{えー} ^{えー} ^{えー} ^{えー} ^し ^{ちゅ}
うぬ後、南んかい南んかいひんぎて、死じよーるっ人
^{いー} ^と ^{くー} ^ふ ^つ ^く ^ば ^す ^ど ^{めー} ^て ^あ ^ま ^は ^い
ぬ上飛ん越て、隠らりーる場所どめーて、あま走
い
くま走いひんぎたん。

^{いく} ^さ ^う ^{やー} ^{にん} ^{じゅ} ^く ^{にん} ^ぶ ^じ
戦ぬ終わて、家人衆五人無事やたん。

やしが、^{やー} ^や ^{やし} ^ち ^{むど}
家や焼かつて、屋敷んかえー、戻ららんく
^{むら} ^は ^じ ^は ^た ^き ^か ^い ^や ^ふ ^た ^く
と、村外しぬ畑なかい、仮屋小建てて暮らちよーた
ん。

^{やー} ^{むど} ^{かん} ^{ぼー} ^あ ^な
家んかい戻ららなたしえー、あまくまなかい艦砲穴
^ふ ^は ^つ ^{だん} ^{ゆい}
ぬあたい、不発弾ぬあたる故やん。

^が ^つ ^{こー} ^ん ^{とし} ^な ^わ ^{やー} ^ぶ ^こ
学校出じーる年成たる我んねー、テント屋小をて、
^し ^み ^{なら} ^{わら} ^び ^{ちゃー} ^{んな}
墨習たん。童ん達や、皆、からひさつし、ふくた
^{じん} ^ち ^い ^じ ^ち
ー衣着ち、意地ちちちふどいーて来やん。

やつどかつど^{やし} ^ち ^{むど} ^か ^や ^ぶ ^や ^た ^う
屋敷んかい戻て、萱吹ち家建てて、落
^ち ^が ^つ ^{こー} ^か ^や ^ぶ ^や ^{ちゅ} ^く ^{びん} ^{ちよー} ^{どー} ^こ
て着ちゃん。学校ん萱吹ち屋作て、勉強道具一、
^ね ^い ^ぬ ^く ^わ ^ら ^び ^{ちゃー} ^{んな} ^い ^じ
無ーんたしが、生き残たる童ん達や、皆、意地ち
^が ^つ ^{こー} ^う ^ん ^{どー} ^{じょー} ^は ^な
ちち、学校ぬ運動場をて、走ーえー成とーたん。

^{やし} ^ち ^き ^ぎ ^や
屋敷ぬしらーくさーなかいあたる木々や、焼か
^ね ^な ^あ ^し ^{いく} ^さ ^{めー}
て、無ーん成とーたしが、とーをてぬ遊べー、戦前
^あ ^し ^{ぐど} ^あ ^し
に遊だしど、いぬ如遊ばりーたん。

^な ^ち ^な ^{しー} ^{みー} ^と ^あ ^ち ^な
夏成いねー、蝉捕たい、秋成いねー、あーけー
^ど ^{にん} ^{じゅ} ^ふ ^か ^い ^る ^あ ^し
じゅー捕たいっし、年中外をて、色んな遊びんかい
^あ ^し
遊びぶりっし、いーりきさそーたん。

^く ^る ^く ^{にん} ^{しー} ^な ^ふ ^ふ ^む
五、六年生成いねー、あーっ子、みーっ子ぬっ子守
^{にん} ^{じゅ} ^ひ
やーっし、年中くしながにぬ辺一、しーばいかじゃ
そーたん。

^{ちゅー} ^が ^く ^{しー} ^な ^た ^は ^た ^き ^ん ^は ^{たら}
中学生成いねー、田、畑かい出じて、働ちよー
^ま ^た ^な ^ち ^{やし} ^な ^ど ^き ^{ゆー} ^{しー} ^た ^ー
たん。又、夏休み成いねー、同級生達どいーまーる
^あ ^し ^み ^じ ^は ^{たら}
ーっし、汗はい水はい働ちゃん。

うんにーまんぐるまでー、^{やー} ^{やー} ^{えー} ^だ
家ど家ぬ間なかえー、

たー はたき
田、畑、うりから、くむいんでーぬあて、あたびち
からあーけーじゅーん 多く出じて、ゆるっと成たる
いなが
田舎どやたる。

やしが、たった 車 ぬ世成い次第、暮らし方ぬス
ピード上げて、変わてっ来、村なかいある田、くむえ
ー、埋 みらつて、家 ぬ建つち、アスファルトさーに
まぎ道ぬ出来て、家や、コンクリートさーに 作らつ
て、んちゃさーに 囲てーたる屋敷ぬ 囲えー、プロッ
クンかい 変わて、さっこー成て無ーらん。

わらび ちゃー がっこー けー あど じゅく へん
童 ン 達 や、学校から帰て後ん、塾 かい 行じや
い、習 事 ぬ 稽古、うりから、「部活動」んで 言ち、
いちゆな ぶか あし わらべ へん な ね
忙 さぬ、外 ちて、遊ぶる 童 ー、見だらん成て無
らん。

あんすくと、今 ぬ 童 ン 達 や、「毬突き」 「お手玉」
「石なぐー」 「こーるまー勝負」んでーぬ遊びぬ成
らん。

わが わらび しち ちむう いる
我 ン が 童 ン そーいねー、四季 ン かい 肝 打たつて、色
んな遊びから物思ゆる力 ン、運動する 働 ちん育て
らつたるむんやさ。あんし、童 ン 達 ぞーさーや、情
えー ぐき しちじゅーあま どすいな なま じょー
愛 ぬ 出来て、70 余いぬ年寄成たる今ん、うぬ情
えー ちゅー
愛 や、強 さん。

やしが、わが わらび な
我 ン が 童 ン そーいに、ゆるっと成とーたる
いなが か ちて
田 舎 とー、変 わたしが、村 なかえー、昔 から 伝 ーら
つて来よーる色々な 催 し、芸能、つ子孫 ぬ 達 ン
かい 継 がち、催 しぬあるかーじ、村 ぬ っ 人 ぬ 達 ぬ 肝
じゅりーする 構 ぬある 事 ー、嬉 さんあい、自 慢 っ
し 済 むる 事 やん。

ちーちえ か ちゅー ちゃー じょーえー ちゅー
景色 ー、変 わたしが、つ 人 ぬ 達 ぬ 情 愛 や、強 く
成て、世 ン かい 合 ーて 榮 ーて 行 ちゅん ぬ 思 と ーん。
ただ ー ちえー、ち 掛 かい な 事 ー、富 盛 言 葉 ぬ 無 ーん 成
て 行 ちゅる 事 ぞ やる。

あんさんてーまん、「老いては子に従え」んで 言る 言 葉
ぬ 通い、我 張 らん 如、又、昔 ぬ 事、あながち さする

くど ぐど い さちさち くと ぐゆ
事 び げ ー の ー さん 如、生 ち み ぞ ぞ ー み、先 々 ぬ 事 良 ー
かんげ くと たつしや なまな くと
考 ー ら り ー る 如 っ し、達 者 に 今 成 いる 事 ン かい、う
み は ま り わ ぞ や る ン ぬ 思 と ー る 此 ぬ 頃 や ン。

あんしが、此 ぬ 富 盛 言 葉 ー、ち ー し ン 残 し 欲 さ
ん。ち ー さ ー さ ー 益 し や が や ー。

う
終 わ い



ほうおうぼく

うちなぐちなら にー
沖 縄 口 習 たる う じ ゅ み (2)

笹本美恵 (小金井市)

いほーじゅーしちごー ぬー うちなぐちなら
会 報 1 7 号 な かい、何 ン ち 沖 縄 口 習 と ー が ン ぬ
ゆ くと
言 る 事 に ち ー て、う ン ぬ き や び た し が、今 日 や、沖 縄
ぐちなら いる いる ちー ち くと
口 習 い が ち ー、色 々 気 に 付 ち ゃ る 事、う ン ぬ き ー
や ー ン ぬ 思 と ー い び ー ン。

うむ どー はつあん くと うちなぐちえ
思 と ー たる 通い、発 音 ぬ 事 や い び ー ン。沖 縄 口 ー、
じょーま 言 葉 ン か え ー、無 ー ら ン 音 ぬ あ い び ー ン や ー。
うれー、難 さ い び ー ン。な ー、考 ー ゆ 次 第、ゆ く
い ぐり な また
ん 言 ー 苦 く 成 い び ー ン。又、ア ク セ ン ト、う り ー ち ー
い よー あ さ ざ たい たい す し さ ー に、ち む え ー ぬ 変 わ
い し ン あ い び ー ぐ と、い っ ぺ ー 気 使 や び ー ン。

うちなぐちなら なま ちかんげ わ くと
沖 縄 口 習 て、今 っ 来 考 ー て 分 か たる 事 や い び ー ン。
うちなぐちえ にかし やまど ちか くと ば なま
沖 縄 口 ー、昔、大 和 ちて、使 と ー たる 言 葉 ぬ、今、
うちなぐちえ ちか ちか ゆ くと わ くと
沖 縄 ちて、使 と ー ン ぬ 言 る 事 ぬ 分 か て、驚 ち や び た
ん。

また はじ くと ば やまど ぐち
又、「ん」から 始 ま いる 言 葉 ー、大 和 口 な か え ー、
ね うちなぐち うちなぐち
無 ー や び ら ン し が、沖 縄 口 な か え ー、多 く あ い び ー
ん や ー。例 れ ー、「昔」 「胸」 「んす」 「んちゃ」

「んかじ」^{んじゆ}、「溝」^{んけ}、「迎-ゆん」^{んけ}・・・な-、ちゃっさ
や^んあいび-んや-たい。

「しりと」^ゆん^くと^ばあ^しし
「しりと」^ゆん^くと^ばあ^しし
大和口やれ-、言葉ぬ終わいんかい^んぬ来-ね-、
ま^まきやいび-ん。沖繩口やれ-、終わゆ-さびらん
や-たい。

昔^ん人ぬい言葉^んで-や、言-様や変わ^ん、い
ぬちむえ-ぬ言葉^んあ^て、あ-りきさん^んで^思やび-ん。
沖繩口^習て、言葉^遣-、うりから、言-様にち-
て-、変わ^て、我^ん肝^んかい^残と-る言葉ぬあいび
-ん。

御若く成^いみそ-ち。
此^ぬ言葉^一、御衆^様ん^分か^いみ^しえ-る^如、正月^ぬ挨
拶^{言葉}やいび-んや-。

昔^一、「数^え年」^んち、生^まり^てちや-け-、歳^一、
一^ちや^て、うぬ^後、正月^迎-いる^か-じ-ち^な-歳^取
や^びた^んや-。此^れ-、大和^をん^いぬ^如やいび-た
ん。

歳^取ゆ^んで^言し^え-、歳^ぬ多^く成^いる^肝-あらん。
い^きら^く成^いん^で言^る肝^どやいび-しが、御^年寄^いぬ
し-じゃ^方ん^かい^細-き^て、「御^若く^成い^みそ-ち。」
ん^で、う^んぬ^きて^挨拶^さび-んや-。

前^やか、な-^ん達^者し^みそ-り^よ-ん^で言^る、し^情
き^ぬあ^んで^思やび-ん。

首^里ん^人-、揃⁻揃⁻。那^覇ん^人-、な-走^い走^い。
久^米村^ん人⁻、く^んく^るば-せ-。泊^ん人⁻、

ど^め-い^どめ-い。
首^里ん^人-、着⁻倒^り。那^覇ん^人-、食⁻倒^り。泊^ん
人⁻、し-倒^り。

大和^をん、^京の^着倒^れ、^大阪^の食^倒れ^んで-
ぬ^あて、な-^島々^ぬ気^立て^ぬ事^言る^言葉^ぬあいび-
んや-。

う^ぬ外^にん、な-^ん調^び-ね-、宮^古、八^重山^ん

で-な^かい^んあ^る筈^やいび-ん。
又、我^んが、沖^繩口^習て、い^っペ-好^ちゆる^る言^葉ぬ
あいび-しが、う^り、う^んぬ^きと-ち^やび^ら。

行^逢り^ば兄^弟。
思^んち^やき^らん^うじ^ゆみ^っし^皆と^御縁^ぬ出^来て、
勉^強続^きて^来る^事、又^会員^ぬ多^く成^て、会^ぬ栄-
ゆ^んで^思い^ね-、此^ぬ言^葉思^出じ^やさ^び-ん。

家^習-と^外習⁻。
大和^口さ-ね-、「お^りが^知れる。」^んで、言^るち^む
え-と^成と-い^び-が^や-。

家^をぬ^行-や、外^をん、う^ぬ行⁻や^出じ-く
と、む^ぬ言^ちや^い、行⁻や、繰^い返^し返^し心^得ら^ん
ど^んあ^れ-成^らん^で思^やび-ん。

我^んね-、会^んか^い入^っち、沖^繩口^ぬ勉^強そ-い
び-しが、入^っち何^年ぬ^間-、続^きて^通て、「皆^勤
賞」^いゆる^あた^い(?)^一回^ん欠^ぎら^ん如[、]勉^強
そ-い^び-た^しが、此^ぬ頃^一、山^学校^ぬ多^く成^て、欠^ぎ
た^いそ-い^び-ん。恥^じか^しく^と-い^び-ん。

や^いび-しが、な^るび^ち都^合付^きて、続^きて^行け-や
-ん^で思^と-い^び-ん。し-じゃ^方ぬ^習-ち^呉み^そ
-ち^やる^言葉^一、ち^や-し^使て^行ち^ゆが、又、ち^や
-る^努み、ど^じみ^ゆが^んで、い^っペ-思^一病^み-さ^び
-しが、皆^と勉^強し-が^ち-、い^っ考⁻と^め-て^行
け-や-ん^で思^と-い^び-ん。

此^りから^ん宜^さる^如習⁻ち^呉み^しえ-び^れ-。

終^わい



さん^にん(月^桃)

会報に出てきた語句の説明

- ・どーぬ好ちゆる遊び^{あし}：自分の好きな遊び。
- ・～んでー：など。
- ・気立^{ちだ}て：気立て。性質。
- ・あんすくど：それだから。だから。
- ・じめ：どの。
- ・為枯^{しか}らし：経験。
- ・変わ^かて：とりわけ。格別。特に。
- ・いーりきさん：面白い。楽しい。
- ・まんぐる：ころ。おおよその時を示す。
- ・うんにーまんぐる：その頃。
- ・ゆちゆちーと：ゆうゆうと。ゆったりと。
- ・あてってーんそーん：あどけないさまをしている。
- ・なー銘銘^{めーめー}：銘銘。各自。
- ・ひーたー：羽織に似た冬用の着物の名。
- ・しんか：手下。ここでは子供たちのメンバー。
- ・いぬ組^{くみ}：同じ組。
- ・ちがーるーすん：交替する。
- ・んま：そこ。
- ・くむい：池。
- ・まぎくむい：大きな池。
- ・ばーき：ざる。かご。
- ・あまくま：あちこち。
- ・んちゃ：土。土壤。
- ・をーじ：砂糖きび。
- ・ちかねー物^{もの}：家畜。
- ・どーくる：自分で。
- ・あーけーじゅー：とんぼ。
- ・夕さん^ゆて：夕方。
- ・うち変わ^かて：うって変わって。
- ・～かーじ：つど。度。たびに。
- ・毎日ぬかーじ^{めーにち}：毎日のたびに。
- ・ねーび：まね。
- ・あさぎ：離れ屋。
- ・ぬーりんちゅん：はいり込む。
- ・～らーさん：らしい。
- ・がならーさん：かいがいい。よく立ち働くさまなどと言う。
- ・いっぺー：たいそう。非常に。
- ・まじゅーん：一緒(に)。
- ・いーゆん：もらう。
- ・うんにーねー：そのおりに。
- ・うじゅみ：はずみ。機会。きっかけ。
- ・後ぬうんじゅみ^{あと}：あげくの果て。
- ・たった：次第に。
- ・たったちじ成ゆん^な：次第に悪くなる。
- ・ひんぎゆん：逃げる。
- ・どまんぐゆん：うろたえる。慌てる。
- ・とめーゆん：拾う。捜し求める。
- ・からひさ：はだし。
- ・ふくたー：ぼろ。
- ・意地ちゆん^{いじ}：しっかりしている。
- ・ふどいーゆん：成長する。
- ・やっどかつと：やっど。ようやく。
- ・しらーくさー：前後左右。周囲。
- ・とー：平坦。平ら。
- ・いぬ如^{ごと}：同じように。同様に。
- ・遊びぶり：遊ぶことに心を奪われること。
- ・ぬーっ子^こ：甥。
- ・みーっ子^こ：姪。
- ・くしながに：背中。
- ・しーばいかじゃすん：小便のにおいがする。
- ・いーまーるー：順番に労働交換を行うこと。
- ・あたびち：蛙。
- ・ゆるつと：ゆるりと。のんびりと。
- ・さっこー：きちんとしないこと。殺風景。
- ・肝じゅりーすん^{ちむ}：協力する。
- ・あんさんてーまん：そうしても。それでも。
- ・あながちさすん：懐かしがる。
- ・びけーん：ばかり。
- ・生ちみどどーみ^い：生きている限り。一生。
- ・うみはまゆん：はげむ。没頭する。

- ・ちゃーしん：どうしても。
- ・ちゃーさらー：どうしたら。
- ・うんぬきゆん：申し上げる。目上に言うことの敬語。
- ・じょーま言葉^{くどば}：標準語。
- ・ゆくん：さらに。
- ・ちむえー：意味。
- ・んす：味噌。
- ・んかじ：むかで。
- ・い言葉^{くどば}：ことば。言い伝え。
- ・昔^{んかし}人^{ちゆ}ぬい言葉^{くどば}：ことわざ。格言。
- ・いきらさん：少ない。僅かである。
- ・しーじゃ方^{かた}：年上の人達。先輩たち。
- ・細^{くめ}ーきゆん：つましくする。細かく注意を払う。
- ・なーふん：もっと。
- ・くんくるばーせー：押し合いへし合い。
- ・どめーいどめーい：尋ね尋ね。
- ・しー倒^どり：働きすぎて倒れること。
- ・思^{うみ}んちゃきらん：思いがけぬ。
- ・心得^{くくり}ゆん：気を付ける。
- ・欠^かぎゆん：欠席して欠ける。
- ・なるびち：なるべく。
- ・ちゃーる：どんな。
- ・どじみゆん：成し遂げる。仕上げる。
- ・思^{うみ}一^や病^やみー：思い悩むこと。
- ・～がちー：ながら。つつ。
- ・ばー：よい。いい。

*本文では、語句は活用されているのもありますので、ここに示しました語句とは必ずしも一致しておりません。

参考文献

- ・沖縄語辞典「国立国語研究所」
- ・沖縄語辞典 内間直仁・野原三義 編著
- ・Okinawan-English Wordbook Mitsugu Sakihara
「University of Hawaii Press」
- ・広辞苑「岩波書店」
- ・新公用文用字用語例集
「内閣総理大臣官房総務課監修」

事務局から

石原末子さんが、子供のころの遊びについて書いていますが、今ではこういう遊びは見られなくなりましたね。それから、彼女は、幼いころ、恐ろしい戦争体験をされました。あの鉄の暴風と言われるものがあつた激戦地をさ迷って生きてこられたわけです。あの地域はたくさんの方が亡くなったところですよ。二度とあのような戦争はあつてはならないです。体験をよく文にまとめられました。ありがとうございます。

笹本美恵さんからは、前号からの続きが出ました。言葉遣いや、印象に残る言葉を書いていただきました。そして、好きな沖縄の言葉も教えていただきました。ありがとうございます。

うちな一ぐちを習ってどのように生かしてゆけるのか悩んでいらっしやいますが、一緒に考えて行きたいと思えます。

今回の表紙の写真は、325年も前に作られた大獅子です。石原末子さんの案内で、現地へ行って撮って参りました。

八重瀬岳に向かって蹲踞するこの大獅子像は、1689年に建立された。「球陽」によれば、当時富盛では火災が頻発して、大きな社会問題になっていた。困惑した村人たちは、久米村の風水師、蔡応瑞に懇請して富盛の風水を見せたところ、彼が言うには「あの八重瀬岳は火山^{フイザン}である。獅子の形を作って八重瀬に向ければ災いを防ぐことができるだろう。」と、村人は皆その言葉に従って獅子像を作り、八重瀬に向けて蹲踞させたところ、以後火災の難を免れたと伝えられている。 富盛字誌から引用。

この会報を音読などの教材として使用される方がおられましたら、事務局へ連絡くださいませ。

この会報は、「うちな一ぐち」にご関心があれば、会員以外の方でも投稿できます。

原稿は趣旨を変えないで、手直しをする場合がありますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。そして大変恐縮ですが、原稿料はお支払いできませんので、会報を寄贈して薄謝に代えさせていただきます。 國吉（眞）

沖縄文字一覧と用例

赤い字はこの号で使った字です

と [tu] とい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	と [tu] とい(鳥) うと(音) みーと(夫婦)	ふ [hwe] ふー(南) にふーでーびる(有難うございます)
と [to] とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	と [to] とーふ(豆腐) とーばる(桃原)	へ [he] へい(おい「目下への呼びかけ」)
ど [du] どし(友人) やど(宿) どー(自分)	ど [du] どし(友人) やど(宿) どー(自分)	や [?jal*] やー(君、お前) やん(言わない)
ど [dol] どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	ど [dol] どーぐ(道具) まんどーん(たくさんある)	や ['jal] やー(家) やん(である)
て [ti] てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	て [ti] てーち(一つ) てーだ(太陽) てん(空)	ゆ [?jul*] ゆん(言う)
て [te] てーく(太鼓) てーしち(大切)	て [te] てーく(太鼓) てーしち(大切)	ゆ ['jul] ゆんたく(おしゃべり)
て [di] ふて(筆) むーてー(喉) てきやー(秀才)	て [di] ふて(筆) むーてー(喉) てきやー(秀才)	よ [?jol*] よーいー(おさな子)
で [de] でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	で [de] でーじ(大変なこと) ちよーでー(兄弟)	よ ['jol] よーんなー(ゆっくり)
ふ [kwa] ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	ふ [kwa] ふじ(火事) ふっちー(ごちそう)	あ [?wa]* あー(豚) あーちち(天気)
か [ka] かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	か [ka] かじ(風) かんない(雷) かーま(遠方)	わ ['wa] わーむん(私のもの)
ふ [gwa] にんふん(念願) ふんく(頑固)	ふ [gwa] にんふん(念願) ふんく(頑固)	あ [?wi]* あー(上) あーりきさん(面白い)
が [ga] がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	が [ga] がんちょー(眼鏡、めがね) しがた(姿)	あ ['wi] あきが(男) あなく(女)
く [kwi] くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	く [kwi] くー(声) さっくー(咳) くゆん(呉れる)	あ [?we]* あーきー(金持ち) あんちゆ(ねずみ)
き [ki] きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	き [ki] きー(木) きゆん(蹴る) きぶし(煙)	あ ['we] ういあー(お祝) わじゃあー(災い)
く [gwi] くーく(越来「地名」)	く [gwi] くーく(越来「地名」)	ん [?N]* んみ(梅) んに(稲) んなじ(うなぎ)
ぎ [gi] かーぎ(容ぼう)	ぎ [gi] かーぎ(容ぼう)	ん ['N] んに(胸) んみ(嶺井「地名」) んなと(港)
く [kwe] くー(鋏) からじくー(髪きり虫)	く [kwe] くー(鋏) からじくー(髪きり虫)	い [?i]* いん(縁) いだ(枝)
け [ke] けー(かゆ) ちけー(使者)	け [ke] けー(かゆ) ちけー(使者)	い [?i] いん(犬) いーび(指) いちゆん(行く)
く [gwe] ぐったい(ぬかるみ)	く [gwe] ぐったい(ぬかるみ)	を ['u]* をと(夫) をーじ(さとうきび)
げ [ge] げー(害) にげー(願い)	げ [ge] げー(害) にげー(願い)	う [?u] うと(音) うーび(帯)
ふ [hwa] ふー(葉) なーふ(那覇)	ふ [hwa] ふー(葉) なーふ(那覇)	え ['e]* えーま(八重山) えーじ(八重洲)
は [ha] はる(畑) はぎもー(荒地)	は [ha] はる(畑) はぎもー(荒地)	え [?e] えーさち(あいさつ) えーじ(合図)
ふ [hwi] ふじゃい(左) ふーと(いるか)	ふ [hwi] ふじゃい(左) ふーと(いるか)	お [?o] おーじ(扇) おーさん(青い)
ひ [hi] ひやみかすん(えい、と言う)	ひ [hi] ひやみかすん(えい、と言う)	を ['o] をーじ(王子) をーれー(往来)

[]内は沖縄語辞典による読み方 [?]は声門破裂音のあること、[']は声門破裂音のないことを示す。

* は単語の語頭だけに用います。語頭以外では用いません。

例 とい(鳥) ×とい

音の出だしに、僅かに i をひびかせます。(自由使用とされていますので、使用許可は要りません。)